平平成二十八年二月投句　【櫛田神社（節分）】

空を向く凍蝶の眼の碧さかな　勝利

身に巣くふ病と共に春を待つ　光子

鶯に一瞬消えて沢の音　真理子

掛け持ちのにわか芸者や節分会　由紀子

縫ひかけの着物を膝に春を待つ

木々ごとの木札新し梅とあり

ふるさとに似て雪道の楽しかり

カメラマン片手でキャッチ年の豆　佳与子

マスクして禰宜休憩の社務所裏

利休梅竹の添え木に芽を吹きて

祝唄調子はずれの節分会　節子

遊具みなペンキぬられて下萌ゆる

午祭直会にまで長居して

本郷の坂の四辻にある余寒

恵方巻門前に売る節分会

熱の児に添い寝する夜の雪しまく

山茱萸の花のまわりで畑仕事

飛んで来し紅白の餅節分会